

第 11 回動連協シンポジウム開催のお知らせ

関係各位

開催日時：4月22日（土）13：00～17：10

タイトル：「国際的な視点による最近の動物実験関連ガイドラインから学ぶ」

開催方式：オンライン（Zoom）

参加費： 会員 2000 円、非会員 4000 円

（団体会員 5 名、賛助会員 2 名の参加費を会員扱いとさせていただきます。）

上記の要領で、第 11 回動連協シンポジウムを開催いたします。プログラムの詳細は添付文書をご覧ください。参加手続きは、<https://sympo.adthree.net/npo2023/>よりお願いいたします。

わが国の動物実験については動物愛護管理法および文科・厚労・農水 3 省から発出された動物実験基本指針に基づく機関管理体制が整備されているところですが、動物実験を取り巻く世界の状況は刻々と変化しつつあり、最近数年間のうちに動物実験に関連する重要なガイドラインも発表されています。そこで、今回のシンポジウムでは 4 名の先生方をお招きし、これらのガイドラインについて解説していただき、今後の動物実験のあり方を皆様と共に考える機会にしたいと思います。

「ARRIVE ガイドライン」と「PREPARE ガイドライン」は動物実験のデザイン、解析方法、および報告の改善に資することを目的としたガイドラインです。動物実験の計画立案や成果発表を行う研究者にとって避けて通ることができないものとなりつつあり、久和 茂先生（東京大学；動連協理事）と國田 智先生（自治医科大学；動連協理事）に説明していただきます。

「AVMA 安楽死ガイドライン」は、米国獣医師会によって作成された動物の安楽死に関するガイドラインで、本ガイドラインに掲げられた方法が世界の標準的な方法と捉えられているため、実験動物関係者にとっては必携のものとなっています。米国実験動物医学専門医の資格をお持ちの内橋真悠先生（日本メドトロニック）に説明していただきます。

サル類については、ウェルビーイングのより一層の充実が求められているところですが、日本神経科学学会では 2020 年に「神経科学分野における霊長類を対象とする実験ガイドライン」を発表されました。本ガイドラインについて、とりまとめの労を執られた中村克樹先生（京都大学）に説明していただきます。

各演題は 60 分で、その後に総合討論も予定しています。どのガイドラインも動物実験関係者にとって大事なものと思いますので、多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。また、お近くの非会員の方にもお声掛けいただければ幸いです。

また、今年もホームページで企業の方々のご紹介をさせていただくことになりました。

A 方式は、賛助会員欄に企業名あるいは企業のロゴを掲載しておき、参加者がそこをクリックすれば賛助会員企業の HP に飛ぶものです。費用は動連協の賛助会員、団体会員は無償、それ以外の法人は 3 万円です。

B方式は、バーチャル展示で、予め準備された企業商品の動画などの画像をその展示欄から見る事ができるものです。B方式が会員、非会員の別なく8万円です。

なお、バーチャル画像の作製にあたってはアドスリーの協力がいただけます。

これら展示についてはサンプルを添付書類でお示しさせていただきます。

NPO 法人動物実験関係者連絡協議会事務局

TEL 03-3528-9841 FAX 03-3528-9842

mail:office@renkyo.or.jp